

---

# 双子恋愛

景那

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

双子恋愛

### 【ZPDF】

Z9600G

### 【作者名】

景那

### 【あらすじ】

知らなかつた・・・運命つてこんなにも奇跡的で残酷なんだね・・・

## -イケナイコイモノガタリ-

私の名前は跡部侑理。

いまは、お母さんと2人で暮らしています。

お父さんとお母さんは私が生まれてすぐ離婚し

お父さんには1回も会ったことがない・・・。

お父さんがいなくて寂しいこともあるけど

不幸だな。なんて思つたことはありません。

お母さんはいつも私のことよく分かってくれるし

相談にも乗ってくれる。

本当にいいお母さんなの！

お父さんとお母さんが離婚して16回目の春・・・。

私は高校生になりました。

地元の桜華女子高校に進学して毎日楽しい生活を送っています。

私は双子の兄がいると聞いたのは

中学3年の春。

お母さんの口から聞かされました・・・。

「もう話しても大丈夫よね。」

「なに・・・？」

「侑理、あなたには双子の兄がいるわ。」

「え・・・?お兄ちゃん・・・?」

「 もうよ。今まで内緒にしてて」めんなさい。」

「 大丈夫だよ・・・色々教えて? お兄ちゃんやお父さんのこと。」

「 もうね。いっぱい話すわ。」

それから沢山のことを見聞いた。

お父さんの顔や名前も知らなかつた私。  
だから急に言われて驚いたのは本心・・・  
でもなんか嬉しかつた。

お父さんの名前は「カズキ」兄の名前は「ミツキ」。  
生まれたとき私とミツキはそつくりだつたんだつて・・・  
お爺ちゃんにもお婆ちゃんにも祝福されて  
お母さんは本当に嬉しかつたつて・・・。

## 合コン①

5月

「侑哩！」

「なにー？ 美咲。」

「明日の大和一高との合コン行くでしょー？」

「あーうん！」

「アソシのセッティングだから期待できぬいけど！」

高校に入ってから仲良くなつた友達の深津美咲。  
美咲は近くにある大和一高という男子校に中学の友達がいるらしく  
合コンをセットしてくれたらしい。

私は、高校に入るまで殆ど恋愛に興味がなかつた。  
私のことを好きだと言つてくれた人もいた。  
正直に嬉しかつた。付き合つた人もいた。  
でも長続きはしなかつた・・・  
私がいつも悪いの。でも相手の人たちは笑つて  
「ありがとう」

そう言つて去つていく。優しい人たちだつた。  
だからもう少し大人の恋愛をしてみたいから  
美咲の話もOKした。

「えっと・・・明日9時に駅前南口集合だから」

「つよつかーい」

「ぬつちゅやね洒落してきなーー。」

「べー無理無理ー。」

「無理とか言わないー。」

私の弱気な発言に美咲は背中をバシーと叩いて脚をついた。

「こつたーーー。」

「へへーんー弱氣だからいけないんだよーだ」

「もーー明日起れなくなつたらビーゆんのー。」

まさか考えもしなかつた。

この合コンで私達が会うなんて・・・

どうして出会つてしまつたんだろう。

お兄ちゃん・・・。つづん、ミシキ・・・。

ねえ神様。

あなたは本当に意地悪なんですね。

どうして私達を出会わせたの?

どうしてこのタイミングで?

どうしてこのシチュエーションで?

ねえ・・・神様・・・?

## 合言2

昨日美咲と待ち合わせた時間に間に合つよつて南口に来た。いつもの場所にまだ美咲はいなくて一緒に行くメンツの3人が来ていた。

「侑理おはよ」

「おはよー」

神崎麻奈  
五十嵐哀歌  
佐藤真由

3人は美咲と中学から一緒に  
もともとのグループ。  
そこに私が入つた感じ。  
でも中学の時みたいな不安はない。  
このグループにいると落ち着くしみんなサバサバした性格で  
話していく楽だつたりする。

「美咲まだだしー」

「美咲つていつとも（笑）」

「仕方ないよー美咲だもん。」

日々に挨拶をし美咲の話で笑いあう。  
本当にみんな良い子だなあ・・・。

「みんなーー遅くなつた?」

そんなとこに美咲が来た。

「おはよー」

「まだ大丈夫?」

「よかつたー」

美咲の後ろには男の子が立つていた。

「お、浩太じやん!」

「真由、哀歌、麻奈、久しぶりー!」

真由が男の子に言つと

浩太と名乗る子が3人に微笑みかける。

「ここの子が侑理ちゃん?」

「あ・・・はー。」

急に話しを振られて少しか細く答えると  
麻奈が助け舟を出してくれた。

「もう口説く気?」

「違うよ。今日のツレに似てるからだ。」

「ツレヘ。」

「そう。まあカラオケに行ってから紹介するよ。」

そう言って男子が待つカラオケに行くことになった。

私の心中は浩太君の言葉でいっぱいだった。

”今日のツレに似てるから”

何で似ているんだろう…。

カラオケに着き部屋に入ると4人の男子が座っていた。  
もつとキャラそうな人が来るのかと思つたら  
みんな爽やか系の人で少し安心した。

「お待たせ、女子連れてきたぞ。」

「こんなにちは~」

浩太君に続き部屋に入る私達。  
美咲はもう挨拶までしちゃつてるし・・・。

「じゃあ自己紹介すつかー俺は知つてのとおり渡部浩太。よろしく  
ー」

「女子幹事の深津美咲でーす よろしくー。」

「俺は酒井亮。サッカー部ですー。」

「神崎麻奈です。バレー部やつてますー。」

「うううの六戸慎一でーす。六戸のひ、慎一のひ、サッカーのひよ  
ろじくうー。」

「五十嵐哀歌です浩太と同じくバスケやつてまーすー。」

「大森工でーす。俺もバスケ部なんでー。」

「佐藤真由です。書道の師範持つてます！」

みんなが次々と自己紹介をしだんだん私の番になつて胸の鼓動が高鳴り顔が高潮する。

「忍足三月。よひじくー」

「あ・・・えと。跡部侑理です。」

緊張してとりあえず名前だけ言つて頭をさげた。でも耳に残る名前。

”ミツキ”

「なーなー三月と侑理ちゃんって似てねえ？」

「えー？あー本当だあ・・・」

私はおそれるおそれる顔を上げると

自分でも驚くくらい似てる人がいた。

「へえー・・・」

本人の三月くんは声も出でずいつも見ている。

人違いだよね・・・?

お兄ちゃん・・・? そんなはずないよね。  
でも気になるよ・・・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9600g/>

---

双子恋愛

2010年10月15日23時58分発行